

<巻頭言>

地域における自殺の実態と予防対策

平野かよ子

The Fact of Suicide and Prerentive Measures in Community

Kayoko HIRANO

我が国の自殺死亡は1998年に3万人に急増し、それ以降今日まで3万人を超え続けている。これまでも何回か自殺の急増を経験しているが、近年の自殺の特徴は中高年の男性の自殺の急増である。この背景には長引く経済不況とそれに伴う加重労働やリストラ等のストレスの増大があると言われている。しかし、この中高年の自殺について詳細な実態の把握と分析は始まったところである。

一方、自殺についての国際比較では、高齢者の自殺の多いことも我が国の特徴で、高齢化の急速な進展により高齢者の自殺が問題となっている地域も多い。

これらの自殺に対する国レベルでの対策も開始されてきている。平成13年度には自殺防止対策有識者懇談会が設置され、平成14年12月にはその報告書として「自殺予防にむけての提言」が示された。この報告書の中には、自殺予防対策を効果的に進めるためには自殺の実態を正確に把握することや予防のための研究等の推進、さらに関係者間の緊密な連携を図り、社会全体として自殺予防に取り組むことの必要性等が述べられている。

本特集では、自殺を我が国の公衆衛生上の課題と捉え、特に地域における取り組みの可能性について論じるものとした。

まず、我が国の自殺の経緯と現状・課題を概観し、自殺に関する国内外の研究の到達点を紹介する。次に高齢者及び勤労者の自殺の現状と地域における予防対策、地域と職域との連携上の課題、中高生への予防対策について論じた。さらに民間としての自殺予防対策、特に電話相談による支援と予防の実際と課題についても紹介した。

地域における自殺予防対策は緒についたところである。今回の特集により各自治体、各機関において自殺に関連する実態を把握し、予防のための取り組みを開始する手がかりを得るものとなることを期待する。

また、自殺問題は、これまで焦点化されなかった「男性の健康対策」に着目する契機を提示するものとする。この自殺問題をきっかけに、公衆衛生上の一領域として「男性の健康」が設定され、この研究と実践が進展されることも期待したい。